（様式4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1272201912		
法人名	特定非営利活動法人グループホーム陽だまり		
事業所名	グループホーム陽だまり寿の家		
所在地	柏市十余二254－136		
自己評価作成日	令和3年5月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和3年5月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

現在の高齢者が大切にしてきた日本古来の風習や四季折々の時節に合わせた行事を重んじ、家族的な雰囲気の中で共に楽しみながら、高齢者自信を主役にし季節感を味わえる様に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホーム陽だまり寿の家」は家庭的で落ち着いたくつろぎの空間を実現し、自由で楽しい生活を支援することを目指してしている施設である。近隣にイオンタウンやスーパーマーケット等の商業施設が多くあり、利便性に優れた環境に位置している。施設内はバリアフリー環境が整備されており、エレベーターを設置する等、入居者の身体機能に配慮した造りとなっている。法人理事長が地域住民であり、地域とは良好な関係を築いていると共に、日頃から地域行事への参加や地域住民との避難訓練の実施等を通じて、地域と関わる活動を積極的に行っている。日常生活では、散歩や料理を楽しむ等、可能な限り自立した当たり前の暮らしの提供をお心掛けている。昨年の4月からは、新型コロナウイルス感染対策の為、地域との交流活動は中止しているが、家族面会は感染対策を講じながら通常通り行われており、家族関係継続を支援している。医療面においては、複数の医療機関と連携し、日々の健康管理やターミナルケアに取り組む等、いつまでも住み続けられる施設運営を目指し、入居者や家族の安心に繋げている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	採用面接時に説明し、その後はミーティング等で確認している。	「してあげるケアから一緒に過ごすケアへ」と言う理念を掲げており、ホームページへの掲載や施設内に掲示する等、理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。また、入職時や研修等を通じて、全職員が理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段より散歩時に挨拶等声かけし、物産交換等も行い、可能な限り地域の行事に参加し、またホームの行事にも参加してもらっている。	法人幹部が地域の一員であり、日頃から近隣住民とは挨拶や声掛けを交わす等、地域交流の機会は多い。また、地域行事への参加・ボランティアの受け入れ等を行うと共に、同法人のグループホームとの交流機会もあり、入居者の楽しみに繋げている。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、外部との交流は中止しているが、説法ボランティアの受入れは行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座等を開催し、地域の方々にも参加をしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの素直な意見を尊重している。	運営推進会議は、市職員・地域包括支援センター職員・地域住民・法人役員・入居者・家族等を構成員として、年2回開催している。会議では、活動報告や意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、会議は9月と3月のみの開催となっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内同業者と連絡会を組織し役員となっているため連携は密である。	市とは日頃から業務全般における相談や情報交換を行うと共に、柏市グループホーム連絡会に参加し、連絡会の会議を通して、市と連携を図っている。会議では、意見・情報交換を行っており、市や他事業所と共同して、地域福祉サービスの質向上に取り組む体制を構築している。今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、役員会議等、一部の会議は開催されており、コロナ対応の啓発やグループホーム連絡会としての要望の提出等は実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束廃止研修等を受講し共有している。	身体拘束排除における指針を整備していると共に、定期的に検討委員会を開催しており、身体拘束のない支援を実践している。内部研修においては、権利擁護・身体拘束排除・虐待防止の内容に触れ、全職員へ意識浸透を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	連絡会から市の虐待防止委員会の委員を出し皆で共有しているしている.		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括ネットワーク会議等に参加し、他業種の方々と連携し必要と思われる方にはアドバイスをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	早急な契約はせず十分理解を得られ納得された上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	さり気無い会話等から聞き取ったり、運営推進会議に参加してもらい反映させている。	家族の面会時や電話連絡にて家族の意見・要望を直接確認している。また、運営推進会議を活用し、良好な関係作り及び、施設の理解促進に努めている。挙がった意見や要望は、会議や申し送りで周知・検討の上、適切な改善に繋げている。新型コロナウイルス感染対策の為、終末期等の特別な状況以外は、家族等との面会は中止している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行っている。またOBが相談役として職員の意見を吸い上げている。	毎月のミーティング開催時に、職員の意見や提案を確認している。資格取得の奨励制度や希望休の採用及び有給取得への配慮を通じて、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材は財産と考え努力に報いる処遇には最大限の努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	連絡会として合同研修の機会を設け、参加は勤務日程を調整して確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者と連絡会を組織し互いに切磋琢磨している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談は主に家族からであるが本人の要望は可能な限り受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談は主に家族からであるので本人以上に時間をかけて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な契約を求めるのではなく現状に合わせた他のサービスの情報提供等助言をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごすという理念のもと個別の暮らし方に沿うよう努力している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に介護の両輪であり一緒に支え合う旨話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りの取り組みをし面会等は制限せずに行っている。	希望に応じて、友人・家族等の訪問を随時受け付けていると共に、電話や手紙のやり取りも支援している。また、地域のお店の利用やお墓参りの支援も行っており、馴染みの関係継続に配慮している。今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、外部との交流は中止しているが、家族の面会は、感染防止対策を講じながら、実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小人数なので難しい面もあるが最大限の努力はしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	押しつけにならない範囲で行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進んだ利用者には大変難しいが出来得る限りの努力をしている。	サービス開始にあたり、本人や家族から意向・生活歴・身体状況の確認を行うと共に、医療機関や他事業所からの情報収集にも努めている。また、記録や会議を活用しながら、職員間で意見交換や情報を共有する等、入居者本位のサービス提供に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等の協力を得ながら努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の好みやADL等状況に合わせて工夫している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを行い話し合いのうえ作成している。状態変化の見られた時は随時見直している。	本人・家族の意向を確認しながら、会議で現状やニーズを把握した上で介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、定期又は必要時に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことでもノートに記載し情報を共有し、より良い方向に向かうようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力のもと可能な限り行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力により支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携契約を結んだかかりつけ医に全面協力支援を受けている。	協力病院の他に希望のかかりつけ医への受診が可能となっている。定期的に内科医師や歯科医師の往診が実施されており、適切な受診支援が行われている。また、訪問看護師による健康管理や服薬管理に加え、医療面おける相談や対応等も行っており、入居者及び家族の安心に繋がっている。提携病院とは、緊急時・急変時に24時間体制で協力が得られるようになっており、状態変化に応じた迅速かつ適切な医療支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと提携し週に1回定期的に訪問を受けている。また非常勤看護職員が居り連携している。。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携契約を結んだ病院であるが、職員も時間を見つけて面会に訪れている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針として看取りは自然体であると心得、契約時から家族と話し合い、また職員にも都度説明し共有している。	重度化・終末期における施設方針を明文化すると共に、契約時に家族に説明し、同意書も交わしている。重度化・終末期においては、全職員が入居者・家族の意向を確認しながら、安心で納得の得られる支援方法の検討・統一に取り組んでいる。日頃から提携病院の医師や関係機関等と連携を図り、その時々の状況の変化やニーズに応じて適切な支援が行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本マニュアルを備え対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防局の指導のもと避難訓練を行っている。	施設には、スプリンクラー・消火器・火災報知器・通報機器を設置している。また、年2回、消防署届け出の下、自主避難訓練を実施しており、消火器訓練・通報訓練を行う等、状況に応じた避難方法を確認している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても心は生きているということを肝に銘じて行っている。	会議やマニュアルを活用し、職員への理解促進に努めている。職員は、日常生活の中で、声掛けや言葉使いに細心の注意を払いながら柔軟に対応する等、その人らしい暮らしの支援がなされている。日中は玄関等の施錠をせず、入居者の自由な生活を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症であっても心は生きているということを肝に銘じ、さり気無い会話等を通して行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時にはこちらからの声かけを待っている場合もあるので上手く使い分け接している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等は個人の生活習慣に合わせたおしゃれが出来るよう支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みやADL等状況に合わせて行っている。	職員が中心となり、献立作成・食材の購入等を行っている。入居者一人ひとりの身体機能や希望に配慮し、食事作りの一連の作業に参加できるよう工夫している。定期的に行事食・外食会・手作りおやつ等を企画・実施し、一人ひとりの嗜好や身体状況に配慮しながら、調理方法・盛り付け・提供方法等に工夫を凝らし、食に対する様々な楽しみを提供している。現在、新型コロナウイルス感染対策の為、外食会は中止しているが、テイクアウトや出前等を活用し、外食気分を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みやADL等状況に合わせて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	提携歯科医の指導のもと定期的に、歯科衛生士による居宅療養管理指導を受けている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は何より大切なことなので工夫し努力をしている。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握していると共に、声掛け・トイレ誘導を行う等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、散歩等の運動の実施・栄養バランスに配慮した食事や乳製品の提供・水分摂取の励行を行っており、適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の便秘は大敵と心得予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しみの一つであるので、昼夜を問わず希望に沿う様にしている。	入浴は入居者の希望に応じて実施しており、時間や回数等、柔軟に対応している。また、必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴を実施する等、入居者の清潔保持に努めている。その他、菖蒲湯や柚子湯を実施しており、入浴の楽しみを支援している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて見極め促すこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局による定期的な居宅療養管理指導を受け、症状の変化には十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は大切であり、個別に気晴らしを行い本人も満足するよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望はもとより天候に合わせて行っている。	日頃から散歩・買物・ドライブ等の外出を支援すると共に、お花見・地域のイベントに出かける等、様々な外出活動を行っている。しかし、昨年の4月からは、新型コロナウイルス感染対策の為、日常の散歩以外の外出活動は中止しているが、広々としたバルコニーを活用し、お茶飲みや気軽に外気に触れる事が可能となっていると共に、室内でのレクリエーションや行事の充実化を図る等、入居者の気分転換や心身の活性化に向け取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行度合い応じ出来る間は自由に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に迷惑のかからない範囲(時間帯)で自由に行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハード面では限られてくるがソフト面において工夫している。	施設は2階建で、各フロアーはバリアフリーとなっており、トイレや浴室等は十分な介助スペースが確保されている。施設内には、季節の飾り付け・入居者による作品・行事や外出時の写真等が掲載されており、楽しい雰囲気作りがなされている。エレベーターが設置されており、身体状況に応じた環境整備がなされており、入居者・家族の安心と自由な生活に繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で出来る限りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望通りにしている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が出来るよう配慮されている。また、テレビ・ポータブルトイレの設置や布団を敷く事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。その他、各居室は、日当たりの良い居住空間となっており、2階の居室にはベランダが設置し、手すりや柵を設置しする等、安全対策を講じており、気軽に外に出られるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別のADLに合わせて随時工夫している。		